

会 議 記 録				
会 議 の 名 称	議 会 運 営 委 員 会			会 議 場 所 第 3 委 員 会 室 担 当 職 員 阿 久 根 由 美 子
日 時	平 成 2 6 年 7 月 2 9 日 (火 曜 日)		開 議 午 前 1 0 時 0 0 分 閉 議 午 前 1 1 時 5 3 分	
出 席 委 員	湊 藤 本 並 河 中 村 馬 場 菱 田 中 澤 石 野 < 明 田 議 長、小 島 副 議 長 >			
執 行 機 関				
事 務 局 出 席 者	藤 村 局 長、山 内 次 長、山 崎 係 長、三 宅 主 任、阿 久 根			
傍 聴	可	市 民 3 名	報 道 関 係 者 1 名	議 員 1 3 名 (井 上、福 井、齊 藤、酒 井、山 本、日 高、立 花、木 曾、竹 田、西 口、田 中、眞 継、堤)

会 議 の 概 要

1 0 : 0 0

- [湊 委 員 長 開 議]
- [事 務 局 長 日 程 説 明]
- [湊 委 員 長 会 議 の 流 れ 説 明]
- [参 考 人 入 室]

参 考 人 : 井 上 貞 夫 氏 (元 代 表 監 査 委 員)
 井 本 伸 廣 氏 (元 教 育 委 員 長)
 坂 本 信 雄 氏 (京 都 学 園 大 学 名 誉 教 授)
 櫻 井 俊 則 氏 (京 都 学 園 大 学 名 誉 教 授)
 原 田 禎 夫 氏 (大 阪 商 業 大 学 准 教 授)
 宮 本 清 和 氏 (元 亀 岡 市 議 会 副 議 長)

1 0 : 0 6

- [湊 委 員 長 参 考 人 紹 介]
- [出 席 委 員、議 長、副 議 長 自 己 紹 介]

1 定 数 ・ 報 酬 に つ い て

(1) 検 討 及 び 素 案 に つ い て

< 湊 委 員 長 >

各 参 考 人 に 意 見 を 伺 う。

< 井 上 参 考 人 >

議 会 監 視 機 能 の 充 実 の た め 定 数 削 減 は す る べ き で は な い。合 併 時 の 議 員 定 数 は 3 8 人 だ っ た。今 は 2 6 人 で、市 街 地 周 辺 部 の 東 別 院、西 別 院、本 梅、宮 前、東 本 梅、千 歳、旭、畑 野 に は 党 籍 の あ る 人 以 外 は 議 員 が い な い。そ の 原 因 は 定 数 の 減 少 だ と 思 う。

< 井 本 参 考 人 >

大 学 に 勤 め 地 質 学 を 研 究 し て い た。初 歩 的 な 方 法 で、山 を 歩 き ハ ン マ ー で 石 を 叩 き、石 と そ の 分 布 を 調 べ た。3 9 年 前 か ら 亀 岡 に 住 み 亀 岡 も 歩 い た。2 0 年 前 東 別 院 湯 谷

の奥に行くと山が開けており 30~40 戸のローズタウンの住宅が開発されていた。そこは花崗岩というみかげ石が多く分布していた。雨が降ると荒れてしまう。スーパー、市場の建設予定地の看板に驚いた。スーパーはできていない。その子どもは中学になると別院中学校まで自転車で通う。行きは下り坂でよいが、帰りは上り坂で大変である。小学生は東別院小学校である。生活実態を考えると大変である。勤務は大阪が多いと思う。亀岡市内には不便なところが存在している。教育委員長のとき本会議に出席した。緊張感ある議会運営がされていたことを今も思い出す。機能を果されてきた議会である。市内の様々な立地を考え、市民ニーズをくみ上げ、実現するには現在の定数が必要である。

<坂本参考人>

(資料説明)客観的にみるため資料を作成した。亀岡市議会の議会改革度は高い。全国で見れば人口と議員定数は相関しているが、9万人台の人口の市はそれが明確に浮かび上がっていない。定数を考えるのは難しい。財政との関係で考えるべき。議会は二元性のなかで位置付けられている。定数を減らしていけばよいとはならない。その歯止めが議論になるところである。議会は行政に対して姿勢をアピールすることが重要である。昨年度は市民税が減っている。人口が減少すると市民税減少が進む。歳出抑制の姿勢を示すことが今の議会の立場だと考える。人口は10年後には約6%減少し8万5千人になる見込みである。生産年齢人口は更に減り、住民税は1割近く減る。市の税収は住民税と固定資産税で8割を占める。住民税の影響はかなり大きい。歳出削減は必至の状況である。それをにらみ定数を考えれば22人が望ましいと考える。

<櫻井参考人>

議会が自らを改革する姿勢を高く評価している。2名削減の素案に賛成する。全国平均の22.4人に近い数字である。検討において、議会運営の方法見直し、議員の資質向上を図り削減可能とされた姿勢も高く評価する。議会の役割も議論されており、十分議論をされたうえで結論を出されているもので、賛同する。削減の際、新人議員の当選を懸念し調べた。過去12~15回の選挙をみると、6~10人は新人議員が当選し新陳代謝が図られており定数削減の影響はないと考えている。また、特定政党に属する議員の議席比率が相対的に高くなるのではないかと懸念するが、議員は選挙で選ばれるという民主主義の観点から問題はないと考えられる。定数削減による選挙結果への影響はよく分からないが、現在のように少数会派が多数できると議会運営が難しくなるのではないかとということの問題点として指摘する。諸般の事情、人口、財政状況から素案に賛成する。

<原田参考人>

目的が大事である。定数を減らすと議員の当選に必要な得票数が上がる。特に周辺部の人口の少ない地域の声が把握しづらくなることはかねてから指摘されている。平成の大合併の際も問題になった。議会の専門性を高めることは課題である。平成25年度は市長提案議案が183件、委員会提案が2件、議員提案14件である。本来議会は三権分立のなかの立法府であり、議会からの提案はもっとあってよい。平成24年全国の地方議会では93市が政策的な条例を新規に作っている。府内では京都市2件、宇治市2件で亀岡市は0である。中身は政策的とはいづらいものもある。議会の専門性を高めることは大事な課題である。財政破たんしたヨーロッパの金融危機発端のアイスランドでは国民会議で、人口の0.5%に相当する市民を無作為に抽出し会議を行っている。亀岡市に当てはめると459人になる。世界にはこのようにしている国もある。すぐには無理だとしても、むしろこのくらい大胆にしないと

いけないということもある。専門性を高めることを考えると、特定の地域利益の代表は一番避けなければならないのであるが、地域の声を聴かなくてもよいということではない。さらに大胆に定数を削減し 20 人、それ以上の削減も十分に考えられる。議員が生活できるようにすることは若い人が議員にチャレンジするうえで大事である。大胆に定数を削減し、その経費の一部を報酬に上乘せする。専門的職業として見合う報酬を支払うこともあってよいのかと考えている。素案についてはもっと大胆に切り込んでもらいたい。目的を明確にして大胆に切り込んでほしい。

<宮本参考人>

定数を減らすのは好ましくない。1人でも多くの市民の声を議会に送り、市民ニーズを訴える場が議会であるが、人口減少の状況、厳しい財政状況等を考えると、検討結果のとおりで現状は仕方ないと思う。もう少し議員提案の動きがあってもよいと思う。

[質疑]

<中村委員>

本市の市域は広範囲である。自治体の機能は大きく変わってきている。地域課題は自治会、区単位で変わる。課題は全て自治会で集約し、行政と交渉を進める体制が確立してきている。議員は広範囲に、専門性を高め政策立案を進める必要があると思う。

<馬場委員>

素案 24 人の根拠が読み取れないと思っている。議会は市民福祉の向上の視点で考えるべきである。議会改革度 20.2 の貝塚市の面積は 43.99 km²、39.8 の宗像市 199.66 km²の面積である。定数の多いところは広大な面積を持っている。広域をカバーするには定数の確保が必要だという証だと思っている。考えは。

<坂本参考人>

指摘のとおりである。しかし行政需要を抑えないと将来大変な財政状況になると考える。

<馬場委員>

一般会計歳出のなかで議会費が占める割合は 1～2% くらい。多いと考えるか。

<坂本参考人>

どこの自治体も 1% くらいで、亀岡市が多いということではない。

<馬場委員>

三権分立と言われたが、地方自治体は二元代表制で議会がある。二元代表制のなかでの議会のスタッフづくりに対する考えは。

<原田参考人>

国政なら議員に秘書がいて政党がある。どの職場にも前線部隊には支える事務職員がいる。これがあり前線部隊が成り立つ。事務局の機能強化のためには、独立した機関としてあるべき。政務活動費は適正支出を前提に充実を図るべきで、むしろ積極的にされるべきである。議会機能強化を検証できる条件付きではあるが、他市と同様にする必要はなく、むしろ増やしてよいと思う。市職員給与水準、議員報酬を市税に連動させるべきという議論があることも付け加える。

<並河委員>

前期(14期)も定数の議論をしている。議員になった時は定数が 30 人だった。今は 26 人である。定数を減らして市民の声が聴けるのか不安である。考えは。

<櫻井参考人>

市の面積ではなく、まちづくりをどう考えるかである。まちの機能を集約させなければならぬ。コンパクトシティを亀岡市は考えている。そのうえで定数を考えるべき。議員にはまちづくりを考えてもらいたい。また投票率は市の中心部で低下している。投票率を上げるためには住民参加が重要である。議会、議員、住民の努力を考えないといけない。

<原田参考人>

前回の当選ラインは1,000票弱だった。選挙人名簿の地区別人口をみると亀岡地区なら9%弱で当選できる。篠町も12%いらぬくらい。一方、東本梅町なら4倍の票をとらぬと当選しぬ。中心部ほど議員が選ばれやすい現状になっている。思い切り増やすか、減らすかしないと現状のままでは周辺部の市民の声は届きづらく、加速するのではないかと思う。大胆に切り込む方法を検討しなければ、まちづくりに市民の声が反映できなくなると思う。

<宮本参考人>

人口減少のなか将来の亀岡がどうあるべきかの視点がぼけていると思う。しっかりやれば、選挙の投票率も上がる。投票率の低下が不思議である。市民の市政に対する要求はたくさんあるのに投票率はなかなか上がらぬ。このことを問題視すべきである。亀岡地区の議員数は少ない。市民ニーズをとらえるには日々の議員活動にかかっている。定数24人の結論を市民に訴え、厳しい選挙をしてもらえればと思う。

<中澤委員>

定数削減をするべきでないとの意見であるが、他の参考人から定数削減の意見を聞いてどうか。

<井本参考人>

航空写真を見ると市域は緑と白に分かれ、亀岡の歴史、行政が浮かぶ。緑に囲まれ多くの市民が活かされている。議員定数を財政面から考えると少なくなる。26人を24人に検討したことに敬意を表するが、周辺部の緑で中心部が支えられている本市のあり方をみると、人口の少ないところは議員も少なくてもよいという発想はよくない。歴史、地勢、産業などの構造を考えると今まで減らしたことでぎりぎりだと思う。現状維持が妥当だと思う。

<井上参考人>

西部地域はその他区域で議員が出ていない。以前はいた。原因は定数の削減であり、議員に出ても受からぬと思ってしまうのではないかと思う。26人が決して多いとは思わぬ。現状維持が望ましい。減らせばよいとは思わぬ。

<菱田委員>

幅広い世代が議員に出ることが大事だと思う。政策論争が充実する。若い世代の議員が出やすい方法について意見は。

<坂本参考人>

議員の選出のあり方を見ると自治会を反映した形になっている。これは大切なことだと思うが、そこを見直していかないと、地域の意見を尊重しがちになる。物事は全体で考えないといけないと処理できない時代になっている。若者の参加も、山間部の意見聴取も議会の制度を工夫すれば乗り切れる。自治会選出の発想では議会改革はなかなか進まぬ。

<原田参考人>

少ない定数で少ない報酬ならば、十分稼げる別の仕事を持っていないと議員はできなくなる。議員の職業が一種の既得権や身分のような言い方をされるようなことは、

議員にとっては不本意な批判だと思う。現実そうなってしまっている地方議会も多い。議員の仕事は住民の声を代表して行政に反映させることである。少ない定数にするのなら、十分に生活できる報酬が一定ないといけない。若い人はなりたくてもなれない。議会機能強化を前提に活動に合った十分な報酬が必要だと思う。周辺部の意見を聞くことは議会制度の工夫で十分できる。

<宮本参考人>

定数を減らすなら、報酬を上げ、しっかり議員活動をしてもらいたい。

<原田参考人>

(先の発言に)誤解があってはいけない。定数を全体で減らして、1人当たりの報酬を上げることは可能であるという趣旨である。

<藤本副委員長>

現行どおりでよいと考えている。もっと増やすことについてはどうか。

<井本参考人>

財政が厳しいことは承知している。削減は検討の末の英断だと思う。増やしてもよいと思うが、財政が厳しい状況なので現状を維持すればよい。議員の活動は本会議で拝聴していた。

<藤本副委員長>

定数を増やせば市はよくなると思われるのか。

<井本参考人>

そうである。妥当な人数は一元的には言えない。歴史を大事にしたい。自分の住む住宅は歴史も変わり高齢化にある。これからの生活を考えると議員の活躍が期待される。

<中澤委員>

市のまちづくり、地域課題に取り組む仕組みが大事で、財政も勘案して考えるべきだと思うがどうか。

<井本参考人>

そのとおりだと考えている。

<湊委員長>

報酬について、各参考人から意見を伺う。

<宮本参考人>

定数を減らすなら、報酬は活動に見合う額を出すべき。

<原田参考人>

手取り額は少ないと思う。若い世代が職をなげうってやるには将来の不安も考えると難しい。定数削減の場合、報酬の引き上げを検討するべき。

<櫻井参考人>

政務活動費を上げるべきである。報酬は全国的にみても低くもない、現行どおりでよい。活動は政務活動費ですべきで、年間30万円くらいにするべき。平成25年度収支報告書では、政務活動費に残額が出ている。なかには15%ほど残されている。議員活動ができているのかと思う。本来は使い果たすもので、残額があることは正当な議員活動ができていないのではないかと思う。政務活動費を上げる場合個人にも支給できるようにしてもらいたい。議員個人が責任を持って報告するべき。政務活動費の用途は第三者機関を設置し、会計の専門家を入れチェックを行うべき。残額0円というのもおかしい。報告上ゼロにしているのだと思うが、マイナスのまま報告するべき。

<坂本参考人>

仮に4人減らすなら議員業務がかなり増えるので報酬を増やすべきである。歳出抑制の方針を貫くのなら現行どおりとし、政務活動費の増額で検討するべきである。

<井本参考人>

素案が妥当である。畑野町上水道普及のことを議会で要望され、実現された。政務活動費の残額は公費を使わない意識が働いたもの。議会の議論を聞けば勉強されているのが分かる。

<井上参考人>

他市状況をもても高くない。現状でよい。

2 議員、議会について

<湊委員長>

参考人から意見を伺う。

<宮本参考人>

代表質問が3月定例会だけなのは市民からみておかしい。毎定例会すればよい。会派は政策集団であり、毎定例会会派の代表が市長に質すべき。

住宅公社、土地開発公社問題は市民の関心が高いにも関わらず、議会からの市長への追及はなかった。百条委員会を設置し究明しないといけない。「議会はなんだ」と市民は思っている。もやもやのまま終わった。

スタジアム建設は場所、アクセス等市民にとって大きな問題である、3,000人の署名を持って直接請求されたが、議会はあっさり抹殺した。住民投票で市民の声を聴いて、議決権のある議会が最終判断すればよいと思っていた。議員は市民の声を反映すると言って当選してきたのに、かつてなく盛り上がった市民の声を一蹴されたことで市民は議会に対して大きな不信感を持っている。議会の存在感が全く感じられないというのが市民の声である。

今の副市長は2人とも市外に住み、投票権もない。災害の時どうするのか。議員現職のとき、京都市に住む助役の選任議案が提案され、議長は議長席を降りて一般質問で市内に適材者がいないのか質問された。1人は市内在住の副市長を選任すべき。議会も責任がある。市民の血税を2人の副市長が市外に持ち帰っている。そんな副市長は要らない、腹が立つ。市民も怒っている。

他にもあるがこのくらいにしておく。残念に思っていることである。市民には議会が不評であることを伝えておく。

<原田参考人>

アイスランドの議員は無報酬である。直接民主制や大規模な代議制にはデメリットもある。間接民主制も代表の選び方、定数、地域の偏りなどの問題から不完全であるが、民意を反映する精度、正確さは直接民主制に適わないのが通説である。平成25年度の議決事項一覧をみると、市長提案議案はほとんど原案どおり可決されている。実際は結果に表れない交渉、苦労があったと思う。議論の見える化が必要である。修正可決もあってよい。直接請求による住民投票条例のように、議論が盛り上げられればよい。予算、決算など市民には見えにくい。パブコメ募集をされても集まりが悪い。富山県氷見市では市長が「市民のつぶやきをかたちに」を信条に当選され、市民の声を丁寧に聴かれかたちにされている。議会の役目のそうである。議会は市長の追認機関ではなく、もっと提案をして然るべき。議員の頑張りを期待したい。

<櫻井参考人>

投票率は11回が68.57%、15回は51.92%であり、投票率の低下を深刻な問題として

受け止めないといけない。投票率を高める方法を考えなければならない。議会報告 & わがまちトークの開催や年4回の議会だよりの発行など努力はされているが、市民の関心度は低い。市民が参加すれば関心は高まる。議会主催で市民の要望を聞く会を催すのはどうか。スポーツ、教育、観光など常任委員会で、市民も勉強する会を設けてはどうか。その場合行政担当者は外し、議員と住民との議論をやってもらいたい。参加すれば関心は高まる。

(行政の)委員会を見ていると、メンバーが一緒であることが多い。広く市民の意見を聞くことが大切である。まちづくりを根本的に考える場を設けてもらいたい。全ての条例を見直してもらいたい。時代にそぐわないものがある。亀岡運動公園を利用している。利用者の立場に立った条例なのか。10年近く亀岡で開催されていたスポーツ大会が京都縦貫自動車道の開通もあって福知山市で開催されることになった。スポンサーのついた大会で横断幕をあげるだけで料金を取るのはいかがか。時代にあった条例にしないとけない。そうしなければ亀岡は縦貫道の通過都市になってしまう。もっと多くの人々が亀岡に来るように、来やすいように条例を考えるべきである。議会でも検討願う。

<坂本参考人>

議員が自治会に出かけるのは大事であるが、もう少しものごとを全体的に考えるために、行政に多くある委員会、審議会に議員も出席するのがよいと考える。

3年間アメリカニューオリンズにおり、市議会を見る機会があった。ニューオリンズの人口は50万人で議員は6名だった。議員は議会のほかに一般市民の要望をヒアリングする場を設けており、必要な場合は行政に対応を迫っていた。このようなことを特に山間部からの意見聴取のために検討してはどうかと思う。

<井本参考人>

東別院で地質調査をしていたら学校帰りの小学生から「何をしているの?」と声をかけられ、一緒に歩いた。議員も体を動かして狭い地元でなく亀岡をできるだけ広い視野でみてもらいたい。そのために体を動かしてもらいたい。

<井上参考人>

代表質問は3月定例会しかない。会派がある以上、会派で最重点項目を協議し、議会で市長と論戦をするのが本来である。一問一答方式が多い。再質問が少なく緊張感がない。以前は課長が控室におり、メモを入れてきた。職員の緊張感もない。23人が質問している。一問一答で時間を短くして全議員が質問できるようにしている見方もある。代表質問で論戦し執行機関に緊張感を与え、真剣に仕事をするようにするのが議会のあるべき姿だと思う。

<湊委員長>

議会に対する貴重な意見を聞き参考になった。時間設定が短かったことを後悔している。議会のあり方、進め方等の意見をこれからも聞かせていただき、議会に取り入れ前向きに進めたいと思う。

定数、報酬については8月にパブリックコメントを募集し、9月定例会中にまとめたものを報告したい。

貴重な意見をいただいたことに感謝する。

〔参考人退室〕

11:45

3 その他

<事務局副課長>

パプコメ募集は8月6日から9月5日までの1月間でどうか。内容は別紙のとおりでどうか。別紙には検討までの経過、検討の資料を付ける。協議願う。

(次回委員会の日程連絡)

<馬場委員>

別紙には根拠が入っていない。「削減しても議会機能を維持、充実することができる」ではなく、理由を詳しくするべき。委員長において適切にしてほしい。

<湊委員長>

添付資料が付くので理解してもらえらると思う。詳細な意見も資料に入れている。ほかに意見あれば正副委員長に連絡願う。取扱い、修正は一任願う。

全員 了

散会 11:53